

これから大量に出てくる低レベル放射性廃棄物

- 放射性廃棄物というと、高レベルにばかり目が奪われがちですが、低レベル放射性廃棄物も大きな問題です。生活の身近に放射性廃棄物がやってくる、という意味では、高レベル放射性廃棄物問題よりも深刻かもしれません。
- 低レベル放射性廃棄物というと、いかにも危険ではなさそうですが、国の決まりでは低レベルをさらに L1、L2、L3 と3つに区分します。原子炉圧力容器の中で直接、大量の放射能に汚染された炉内構造物などが L1、L2 に区分されます。原子炉圧力容器や使用済核燃料冷却プールなども相当放射能に汚染されているはずですが、これは L2 に区分されています。熱交換器やガスダクトも直接放射能に触れているはずですが、放射能レベルの極めて低いものとして、L3 に区分されています。

これから始まる廃炉ラッシュと核のゴミ

- 現在廃炉中のマップをご覧頂くとわかるのですが、すでに廃炉中（廃止措置中）の原発の数は、福島事故以降、相当に増えています。2020 年以降は運転 40 年超えの原子炉や、小規模で採算に合わない原子炉（国際的にみれば原子炉の採算分岐点は電気出力で 100 万 kW）など、本格的に廃炉ラッシュが始まります。
- 電気事業連合会は、日本にある商業用原子炉がすべて廃炉になったときの廃棄物の量を、総量約 2 億トンと推定しています。その 93%までが原発敷地内にありながら、放射性廃棄物ではないとして、一般産業廃棄物として処分しようとしています。
- 例えば、建屋解体で発生するコンクリート片や、鉄筋材料など、また総量約 5%はクリアランスレベルの放射性廃棄物（CI）として、これも一般産業廃棄物として処分しようとしています。
- クリアランスレベルとは、放射性廃棄物だが、放射性廃棄物として扱わない、という意味です。その基準は 1 kg あたり 8000 ベクレル以下の汚染であればクリアランスレベルと扱えます。（法令では基準は 1kg あたり 100 ベクレル）
- こうした廃棄物をこのままほおっておけば、私たちの生活の身近に、知らない間にあふれることとなります。